

ビームラインアシスタントを経験して

京都大学大学院理学研究科 化学専攻 生物構造化学研究室
修士課程2回生 水野伸宏
E-mail:mizunon@kuchem.kyoto-u.ac.jp

私がビームラインアシスタントとしてお世話になったのは現在所属する研究室に配属されてちょうど丸2年が過ぎた2000年の4月でした。桜の開花までもう少しという、まだ少々肌寒い時期だったのを覚えています。研究として、硫酸還元菌と呼ばれる嫌気性細菌中に含まれる機能未知タンパク質 DsrD の構造解析を行っており、PF にはすでに何度か回折実験でお世話になっていました。しかし、実際に測定機器の調整などを行ったことはなく、不安を多く抱えながらも、ビームラインアシスタントを努めさせていただきました。



私がお世話になったときは、BL18B に初めて CCD カメラを設置したときであり、ビームラインアシスタントとしての一番の仕事は、BL18B 用の CCD カメラのマニュアル作りでした。まだ CCD カメラに慣れていない共同利用者の方々も、非常に多く、CCD カメラの使用方法を理解していただくために、わかりやすい解説を作るのは大変でした。おそらく、このマニュアルをご覧になった方もおられると思います。現在では、僕の後に着任したビームラインアシスタントの方々も改訂されているとは思いますが、このマニュアルを通して、皆さんが安全に CCD カメラを使用していただければ幸いです。

そして、ビームラインアシスタントとしての何よりの収穫は、いろいろな研究者の方々と交流をもてたことでした。研究や実験に関する様々な情報や技術を教えていただき、非常に勉強になりました。この交流で得られたものを、これからの研究に生かしていきたいと考えています。

ビームラインアシスタントになることは、今後の研究を進めていく上できっと役に立つ素晴らしい経験になると思います。ぜひ、これから研究者を目指す学生の方は参加してみてください。私もまた機会があればぜひ参加してみたいと思っています。

最後にお世話になった坂部先生を始め、TARA, PF スタッフの皆様に御礼申し上げます。